

いわき「夢プラン」コンテストを開催

市は、市制施行五十周年を契機に、市民の皆さんに本市の将来像やその実現に向けた取り組みなどを提案していただき、ふるさといわきへの誇りや、愛する心を高める機会とするため、市民プレゼン大会「いわき「夢プラン」コンテスト」を開催します。

いわきを愛する気持ちと、未来に対する熱い思いをプレゼンしてください。方を募集しますので、ぜひ応募ください。



いわきの未来を熱く語る

「いわき「夢プラン」コンテスト」の概要および出場者の募集

とき 7月16日(土)
ところ 市文化センター
テーマ 明るく元気ないわき市の実現に向けて

- 提案の要件
- ・次の50年を展望した「明るく元気ないわき市」の将来像についての提案であること
 - ・提案者が望む将来像を実現する方法についての提案であること
 - ・本市の特徴や可能性を生かした提案であること
 - ・既存の概念にとらわれない、夢や希望に満ちた提案であること

プレゼン方法 8分以内で自由に説明（パワーポイントなどの使用も可）

募集区分 ①高校生以下の部 ②一般の部 ③企業・団体の部
 一次審査（書類審査）を通過した12組（各部門4組）がコンテストに出場

応募方法 応募用紙に必要事項を記入し、〒970-8686 ふるさと再生課へ（直接持参、☎22-7468、✉furusatosaisei@city.iwaki.fukushima.jp可）

応募期限 5月17日(火)必着

※応募資格など詳しくは、ふるさと再生課広聴グループ（☎22-7438）へお問い合わせください。



市地域情報化推進計画を策定

情報政策課情報化推進係 ☎22-1172

市は、地域情報化による活力と魅力に満ちたまちづくりや、行政情報化による市民サービスの向上、行政経営の効率化を目指し、平成28年度から32年度までの5年間を計画期間とする、新たな「市地域情報化推進計画」を策定しました。

同計画では「みんながつながる安全・安心で快適なまちいわき」を情報化の理念とし、4つの基本方針の下、少子高齢化や震災からの復興などの課題解決のため、情報通信技術（ICT）を活用することで、地域の誰もが、情報によりつながり、安全・安心が確保され、快適に生活を送ることが可能なまちづくりを目指していきます。

○基本方針

 ICTによる安全・安心で元なまちづくり	 ICTによる魅力のあるまちづくり	 ICTによる満足度の高い行政サービス	 ICTを快適に利用するための仕組みづくり
-------------------------	----------------------	------------------------	--------------------------

いわきの「いいね！」動画コンテストの入賞作品を決定

ふるさと発信課ソーシャルネットワークグループ ☎22-7503

市制施行50周年に向けた機運の醸成などを目的に、市民の皆さんなどの視点や感性で、いわきの魅力と「明るく元気ないわき市」を表現するオリジナルの動画作品を募集し、厳正な審査の結果、最優秀賞など入賞作品10点を決定しました。

入賞作品は、本市をPRする動画として、さまざまな広報媒体での放映や各種イベントなどで活用します。入賞作品を含む、全応募作品は、i Tube（市公式YouTubeチャンネル）で視聴できます。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

最優秀賞

・聞こえる…いわきの鼓動が（勿来第一中学校報道委員会）

市長特別賞

・おいかけっこ せいちゃん（石田理沙さん）

優秀賞（2点）

・いわき！気ままに空散歩（布施雅彦さん）

・みろく沢炭鉱資料館 TAMEOSAN（内郷まちづくり市民会議）

佳作（6点）

- ・いわき大好き（斎藤昇さん）
- ・アイくるガールズ奮闘中！（いわきロコドルユニットプロジェクト）
- ・「いわき、いいワン！」（黒パグナイトファミリー）
- ・波乗り犬（HOPE編集部）
- ・じゃんがら（根本大さん）
- ・僕たちの世代（加藤秀樹さん）

災害時における物資等の供給協力に関する協定を締結

危機管理課危機管理係 ☎22-7551

市は、2月3日、株式会社ダイユーエイトと「災害時における物資等の供給協力に関する協定」を締結しました。

同協定に基づき、災害時における日用品や飲料水、暖房器具などの調達体制を整備することで、被災者などへの物資供給体制がより強化されます。



（株）ダイユーエイトとの協定締結

いわき子ども・子育て支援サイトを開設

こどもみらい課企画係 ☎22-7483

妊婦やお子さんを持つ家庭などへの子育て情報の充実を図るため、市や民間団体の子育て関連情報を一元化して提供する「いわき子ども・子育て支援サイト」を開設しました。

同サイトでは、保育所・幼稚園、子育て関連施設の情報はじめ、市内のイベントやセミナーなど、ニーズに合わせた情報をタイムリーに提供しています。また、ピンポイントに必要な情報が得られるよう、内容を項目別に掲載していますので、ぜひご覧ください。



QRコード

<http://www.iwaki-kodomokosodate.com/>

「いわき応援大使」情報交換会を開催

2月4日、東京都港区において「いわき応援大使情報交換会」を開催し、応援大使28人と清水市長などが活発な情報交換を行いました。

また新たに、応援大使として5人の方に就任いただき、委嘱状を交付しました。

○新応援大使の皆さん =敬称略= 大倉由紀枝（国立音楽大学教授）、早川信夫（NHK解説委員）、佐川宣寿（財務省関税局長）、大島勝（元関協旭天鵬）、荒川史絵（映画監督）



進んでいます いわきの復興 ②②

3月24日から県内初となる被災市街地の宅地引き渡しを開始

本市の津波被災地である、久之浜、薄磯、豊間、小浜、岩間の5地区で進めている「震災復興土地地区画整理事業」については、事業計画認可および仮換地指定などの手続きを行い、家屋移転補償や宅地造成工事などを進めてきました。

今回、県内初となる被災市街地の宅地引き渡しを3月24日から開始します。今後は造成工事などが完了し次第、順次引き渡しを進め、来年12月までには、全ての地区で宅地の引き渡しを完了する予定です。



小浜地区の工事箇所【2月撮影】



久之浜地区の工事箇所【2月撮影】

こんにちは市長室から ①①



「復旧・復興」から
「復興・創生」へ

いわき市長 清水 敏 男

東日本大震災から、ちょうど5年となります。国の集中復興期間が本年度で終期を迎える中、本市の復興はおおむね順調に推移しており、2月から3月にかけてさまざまな動きがあります。2月は、5日に市長就任以来3度目となる東京電力(株)福島第一原子力発電所構内の視察を実施し、23日には同本社を訪問して要望活動を行いました。

3月には、6日に市主催の「3.11いわき

追悼の祈りと復興の誓い2016」を開催し、11日には市内各地で開催される追悼行事に参加いたします。また、13日に久之浜・大久支所および久之浜公民館が「地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館」として落成、26日には松ヶ岡公園がリニューアルオープンいたします。さらに、29日に災害公営住宅内郷砂子田団地が竣工し、1,513戸全ての市災害公営住宅が完成・入居可能となり、30日には、いわき駅北口交通広場が完成し、美しく機能的な駅前が変わります。

まもなく新年度を迎えます。いわき市は、新たな「市総合計画後期基本計画」、「いわき創生総合戦略」および「市教育大綱」の3つを政策の柱に据えて、復興・創生のステージに歩みを進めてまいります。

市民のひろば ~明るく元気な いわき市を目指して~

レポート ②②③

今月号は、市制施行50周年記念事業いわきの「いいね！」動画コンテストで、最優秀賞を受賞した勿来第一中学校報道委員会の皆さんに、作品への思いや制作中のエピソードなどについて、インタビューした内容をお伝えします。



最優秀賞に輝いた勿来第一中学校報道委員会の（前列左から）丹能萌絵さん、大内玲奈さん、（後列左から）遠藤夢歩さん、大平茉奈さん（共に2年生）

Q 最優秀賞を受賞した率直な気持ちを教えてください。
 遠藤夢歩さん 実際に、市内各地を飛び回り、仲間と協力して制作した作品なので、最優秀賞をいただけて光栄に思っています。
 Q 作品のテーマはどのようにして決めましたか。
 遠藤夢歩さん 私たちは、いわきの美しい自然や学術的価値を持つ地層などを、実際に歩いて体験し、伝えていくことを中心に活動しています。この活動を映像にすることで、

なればと思いましたが、私自身も、作品の制作を通して、身近にある美しい自然や歴史を知ることができました。
 Q 制作中のエピソードなどをお聞かせください。
 丹能萌絵さん この作品は、鳴き砂などの印象的な音を聞いたり、私たちが実際に体験している姿を見て感じてもらえるよう、音声による解説があります。そのため、顔の表情や体の動きで、思いを伝えられるよう、一つ一つ考

いわきの魅力が伝わるのでは、というテーマを決めました。
 Q どのような思いを込めて作品を作りましたか。
 大内玲奈さん 市内には、認知度が低く、地域の方以外には知らないような、美しい自然や歴史ある場所が多くあります。こうした場所を、たくさんの方に知ってもらい、市外から多くの方がいわきを訪れるきっかけづくり



最優秀賞を受賞した作品「聞こえる…いわきの鼓動が」の一場面

えながら撮影しました。撮影は大変でしたが、鳴き砂を使った体験教室や、アンモナイトセンターでの化石発掘、石炭・化石館「ほるる」でのアクセサリーの制作などを通して、あらためていわきの魅力を感じることができました。
 Q 作品を通して市民の皆さんに伝えたいことを教えてください。
 大平茉奈さん いわき市には、フタバスキリユウの化石や東日本大震災による津波被害を乗り越えて残っている鳴き砂など、他の地域にはない魅力があります。こうした魅力を市民の皆さんが誇りに思い、次の世代に残していきたいらと思っています。

※いわきの「いいね！」動画コンテストの入賞作品については、7ページをご覧ください。